ＯＢ会だより

第 53 号

〈発　行〉
京都外国語大学
能楽部OB会広報部

第五十三回外大能十二月十日（土）於河村能舞台

平素より、京都外国語大学能楽部ＯＢ会の運営にご理解とご協力を頂き心から御礼申し上げます。

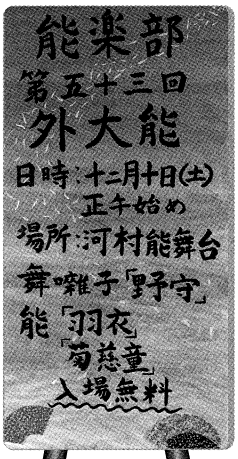
九月四日（日）ＯＢ総会が円山公園内「いふじ」で開催されました。今年は四年に二度の執行部役員改選の年でしたが、滞りなく議事が可決されました事をご報告致します。総会の内容と新役員、そして懇親会、ゆかた会につきましては、７頁および別紙にてご紹介していますのでご覧ください。

また十二月十日（土）、河村能舞台にて第五十三回外大能が開催されます。今年の能楽は「羽衣」「菊慈童」です。大勢の新入生を迎えたフレッシュな現役の仕舞、舞囃子に加えてＯＢ会からも仕舞や能の地謡参加等々多数の舞台出演があります。

年末のお忙しいところとは存じますが、ひとりでも多くのＯＢ・ＯＧの皆様にご来場頂きますよう、お願い致します。

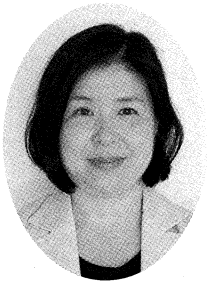


能楽部ボックスの入り口に外大能の告知看板が立てかけてありました。



現役部員達のはつらつとした舞台をご覧ください。

ＯＢ会会長　島谷 直見



京都外国語大学能楽部ＯＢ会の皆さま、平素はＯＢ会活動にご協力下さいまして、誠に有り難うございます。

能楽部も、今年は、創部五十六年目を迎え、その歴史の重さを感じています。今、大学生のクラブ離れが進んでいると、よく言われます。アルバイトやボランティア活動に重きをおく学生。また、外大では、授業時間が、夕方からのクラブ活動時間に重なり、クラブ活動に参加するのが難しくなってきているとも言われています。

そんな中、今年は、我が能楽部に七名の新入部員を迎えました。とても、元気で明るく個性豊かな新入部員が、能楽部をさらに、盛り上げています事をＯＢの皆様にお伝え致します。

今年の外大能は、能楽「羽衣」「菊慈童」の二番と、舞囃子「野守」です。ＯＢ仕舞も七番出ます。毎年恒例となりました、ＯＢと現役の地謡コラボも、毎週一回、楽しく和気あいあいとお稽古を重ねています。

ＯＢの皆様、是非とも、十二月十日の外大能にいらしてください。お待ちしています。

今号の注目記事

能楽部ＯＢ会会長ご挨拶…1P／四回生と能楽…2P／祝☆名誉師範授与…3P
新ＯＢ会員紹介…4P／来春☆忠樹先生の御子息が初舞台！…5P／頑張れ、現役部員！…6P
第八回ゆかた会開催…6P／ＯＢ総会を終えて…7P／第53回外大能番組紹介…8P

現役四回生の能楽への想い
～能楽「羽衣」・「菊慈童」～

能楽「羽衣」

シテ　谷口　詩歩

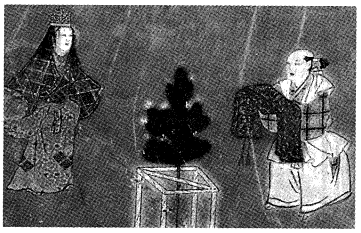
第五十三回外大能で、「羽衣」のシテを勤めさせて頂きます谷口と申します。この度はお能を勤めさせて頂くという貴重な機会を与えていただき、誠に感謝しております。

二回生の外大能で「羽衣」のお能を初めて目にしたとき、とても美しい曲だと感じ、私のなかで大変印象に残っています。このように自分が以前から好きだった『羽衣』のシテを勤めさせて頂くことになり、とても嬉しく思っています。

実際に演じてみると、想像していた以上に難しいと思うことばかりです。天女の悲しみや喜びを表現することや謡に思いを乗せることが特に難しいと感じます。羽衣を返してほしいという切実な願い、羽衣を返してもらい天に帰れる喜び、平和を願う心など天女には様々な面があると知りました。そういった面を表現できるよう精一杯頑張ろうと思います。まだまだ課題が沢山ありますが、今後も練習を重ね、見てくださる方や自分自身も幸せな気持ちになれるような羽衣にしたいと思います。







イメージ：『能楽図帖』「羽衣」（国立能楽堂蔵）より

能楽「菊慈童」

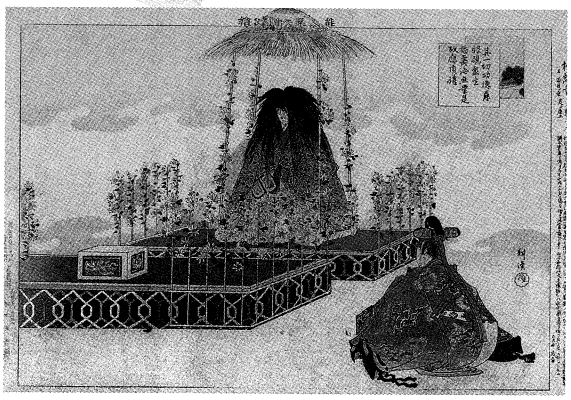
シテ　木俣　悠

このお話は、中国「魏」の時代に遡ります。魏の文帝は、酈縣山の麓から、霊水の湧き出る泉があると聞き、「その水上を見て参れ。」と勅使を遣わします。やがて勅使が辿り着くと、そこは菊の花が咲き乱れる仙境でした。そこに、不思議な美しい少年が現れます。勅使がその少年に問うと、「私は周の穆王にお仕えしていました。」と言うではありませんか。周という国があったのは、七百年も昔のこと。まさかそんな人間が老いることなく生きているわけがない、と、勅使は少年を不審に思いました。少年はこう続けます。「穆王から賜った枕に記された法華経の二句の妙文を菊の葉に書き付け、菊に宿った露が、やがて不老不死の霊水となって流れ出ました。その霊水こそが薬となり、長寿を得たのです。」と。経文を讃え楽しげに舞う少年は、枕を帝に捧げ、菊を掻き分け、庵の中に姿を消すのでした。

菊の作り物が、文字通り舞台に華を添えてくれます。美しく彩られた舞台をお楽しみください。



イメージ：「慈童」



イメージ：「能楽図絵二百五十番　枕慈童」（国立能楽堂蔵）より

祝 島谷会長 名誉師範授与に寄せて

この度、島谷直見会長が観世流宗家より名誉師範の称号を賜りました。名誉師範は、長年お稽古を続けていれば戴けるというものではなく、能の技術はもとより人間性においても秀でた方でなければ戴けないものと言われています。今年五月の聲吟社の会では、披きとして能楽「砧」を披露されました。舞台を観たＯＢ会の方々の感想と島谷会長のお気持ちをご紹介します。





この度は誠におめでとうございます。私が能楽部に入部した時から、島谷先輩は目標とする先輩であり、先生でもありました。どの分野でも長く続けることは大変ですが、特に能楽においては日々稽古をする中で、基礎の大切さを改めて知り、また表現することの難しさが身に染みて分かるものだと思います。島谷先輩の所作にはいつも曲中の人物への丁寧な想いが込められていて、物語としての能楽の面白さを教えて頂いています。先輩の大きな愛を私も引き継いでいけるよう、努めたいです。

栗山　藍〈Ｈ14年卒〉

能楽「砧」は、前シテの橋掛かりでの佇まいがとても印象に残っています。そして、発せられる謡の文句ひとつひとつが明瞭で、さすがだなあと感嘆したのを覚えています。島谷先輩の美声は私の母も大ファンであります。

手紙を書けばいつもすぐに、二枚三枚と便箋いっぱいにお返事をくださる先輩。会えばいつも笑みを絶やさない先輩。私が辛いときに力強く励ましてくださったこと、今思い出しても涙が出ます。

名誉師範のご授与、心よりお祝い申し上げます。

清水麻衣子〈Ｈ16年卒〉

島谷さんは、千の声を持っておられて、いつも私は驚かされる。先日もお電話を頂戴し、外大能楽部の：と仰るその響きは正にはつらつとした現役後輩からの電話そのもので、一瞬間違えそうになった。

現役時代にも思い出がある。私は島谷さんの舞囃子「班女」を何度も聞いて謡の稽古をした一人である。高く伸びたり、燕のように翻ったり、悩ましく揺らめいたりするその多様さに憧れながら、何度やっても上手くいかないので、終にはいつでも頭の中で思い出せるほど熟聴してしまった。そんな私が、今回、砧の謡を聞かせていただいた時、情緒豊かな趣のある中に聞き覚えのある懐かしい響きを見つけて、とても嬉しくなった。また、橋掛かりで後シテが謡い出された時は、人の心の細やかさが伝わってくるようで聞き入ってしまった。心の中にシテの心情が風景のように広がった。胸に詰まされるようでもあった。

私はこうして、島谷さんの後ろをちょろちょろしながら、これからもこのままファンでいようと思っている。

福田佳子〈Ｓ60年卒〉

名誉師範を拝受して

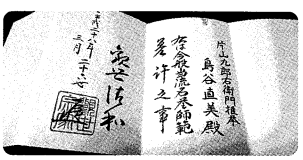
島谷直見

この度、片山九郎右衛門先生のご推薦を受けて、観世流家元観世清和師より、名誉師範の名代を拝受致しました。私にとりましては、長年の遠い遠い夢でした。そして、その披きとしまして、五月四日の聲吟社の会にて能楽「砧」を、片山九郎右衛門先生の地頭、宝生欣哉先生のおワキにて、舞わせて頂きました。

身に余る名代、舞台・・・実現させて頂きました事、橋本礒道先生、忠樹先生のご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

これからも、貴道に励み、後輩たちの指導のお手伝いをさせて頂ければ大変幸せに思います。





新OB会員紹介

※五十音順

飯田 加奈子

ＯＢ会員 No.160

飯田さんは現在、カナダに語学留学中で連絡が取りにくい為、イレギュラーですが、この度新しく広報部員になった橋口さんが紹介文を寄せてくれました。

今年三月に卒業した飯田は私のひとつ下の後輩で、三年間共にお稽古に励みました。彼女を思い返すと、よく部室で寝ていた姿を思い出します。マイペースで、周りの空気を和やかにしてしまうその性格に助けられたことも、一度ではありません。とにかく授業の空き時間や昼休みなど、部室に行くとだいたい彼女がいました。部室を居心地のいい場所と思っていたようで、私はそれをとても嬉しく思っていました。

そんな飯田ですが、練習となるといい意味でとても頑固でした。彼女にとって三回目の外大能で舞囃子「高砂」を舞うことになった時、初めての神舞にとても苦戦していました。足拍子のタイミングが掴めなかった彼女はひたすらに練習を続け、「できないのが悔しい。もう一度お願いします」と、部活が終わってから二十一時過ぎまで一緒に練習をした日もありました。「こんなふうに舞いたい、謡いたい」という自分なりの目標を持っていて、その目標に向かって努力ができ、できなかった時は涙を流しながらも練習不足を反省する、そんな後輩でした。

卒業後、京都を離れ実家のある静岡に移った飯田が、この九月から語学留学のためカナダに渡ったと聞いた時は、驚きつつもとても飯田らしい選択だと感じました。学生時代も今も、彼女の姿勢は「私も頑張らないといけないな」という気持ちにさせてくれます。また彼女と会える日を楽しみにしつつ、遠く海の向こうで今も勉学に勤しむ彼女の健康と活躍を祈っております。

橋口莉奈〈H27年卒〉

片岡 綾音

ＯＢ会員 No.161

私はこの四月に大学を卒業しました。思い返せば私の大学生活は、能楽に捧げた四年間だったと感じます。勉強もそこそこに、いつも部活のことを考えていました。一回生の時に、四回生になったら絶対にお能をやるんだと決めた時から、それを目標に日々練習をしていました。

三回生の時には部長を務めさせていただき、色々と仕事が増えたりつらいこともありましたが、しんどいことがあるからこそそのあとの楽しさがますます強く感じられるようになり、その年からどんどん能楽部にはまっていったような気がします。

四回生の時の能楽『海士』はＯＢの先輩方にも地謡にご参加いただき、その頃からＯＢの先輩方と直接の関わりを持たせていただく機会が増え、今日までお世話になっています。合わせのために毎週仕事終わりに部室に駆けつけてくださり、練習する毎に言葉をかけて励ましてくださった先輩方には本当に感謝しております。

今は能楽部を卒業し、お稽古からも離れてしまいましたが、日々のふとした時に能楽部でのことが思い出されます。夏が終わり寒くなってくると、部員たちとひたすら練習したことや、パンフレットを作ったりめくり書きをしたり、外大能にむけて必死で毎日を過ごしていたことを思い出します。遅くまで学校に残って作業をしたあと、ラーメンを食べにいったりした記憶も懐かしく感じます。また、去年まで後ろについてきてくれていた後輩たちが今は部の中心として頑張ってくれていると思うと、私も自分のことを頑張ろうという気持ちになります。

去年までのことを懐かしく思いながらも、今はなかなか能楽部に関われない状況ではありますが、またいつか私もＯＢとして外大能に関わっていきたいです。

薬師寺　美奈

ＯＢ会員
No.162

本年卒業し、ＯＢ会に入会しました、スペイン語学科出身薬師寺美奈と申します。現在は旅行会社に勤務し、添乗業務や手配業務を中心に行っています。最近は、あまりの忙しさに、能楽に触れる機会もめっきり減ってしまいました。そんな折、この原稿のご依頼をいただき、久しぶりに大学時代のことを思い出しています。

私の大学生活は、やりたいことを可能な限り詰め込んだ四年間でした。その中でも、能楽部を最後まで続けたことは、私の中で今でも輝きを放っています。入部のきっかけはお能「道成寺」をみて、自分もあんな風にかっこよく舞いたいと強く思ったことです。その後どこかの駅の改札口で、堂々と入部宣言したのが今も懐かしいです。入部してからは、先生方、先輩方のご指導の元、着々と技を身に着けていき、能楽の世界にのめり込んでいきました。しかし、体力面などで辛くなり、一時期は能楽を辞めたいと思っていたこともありました。そんな弱っていた時に、同期、先輩が引き留めてくださりました。その瞬間があったから、最後まで能楽を続け、お能「海士」を同回生と演能できました。

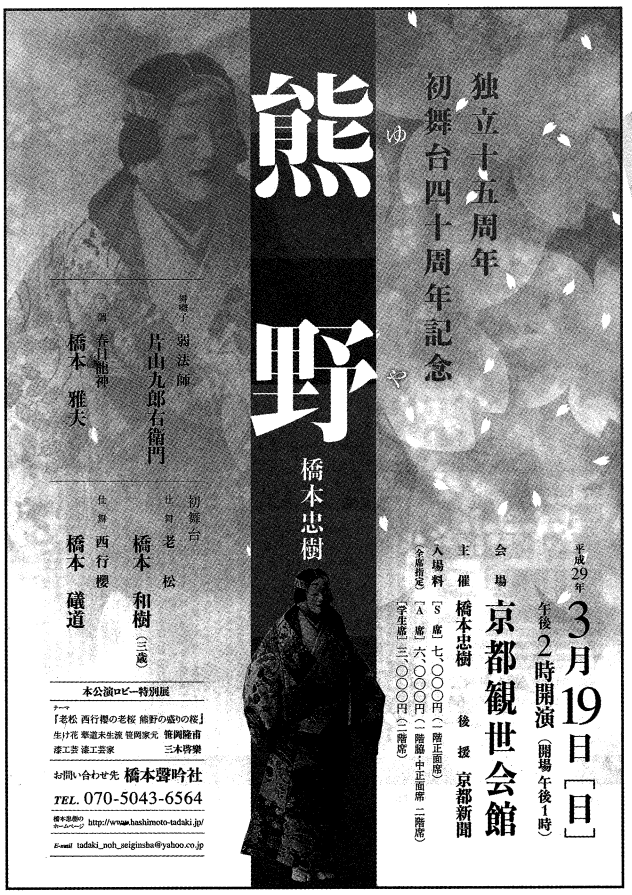
現役最後の外大能を思い返すと、やりきったという達成感と、少しの後悔がありました。就活明けからの本格的な練習。5か月ちょっとで舞囃子を一から、子方をやる。今考えてもぞくりとします。やりきったものの、練習量は圧倒的に足りなかったので、納得いくものに仕上がらなかった。これが後悔です。

今は中々関わることができていない状況ですが、今後は少しでも能楽部の関連事に参加したいと思っています。そしていつか、あの時の後悔も消せる時が来ることを願っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

橋本忠樹先生 初舞台四十周年／独立十五周年記念能のお知らせ

来春三月十九日（日）京都観世会館において「橋本忠樹先生初舞台四十周年／独立十五周年記念会」が行われます。大曲「道成寺」から五年。忠樹先生にとって大きな節目となるこの舞台では、ひと足早い春を感じることができる「熊野」をお勤めになられます。今回はご子息 和樹君の初舞台でもあり、大変豪華な番組になっています。

お早目にチケットをお買い求めください。詳しくは橋本忠樹先生のホームページ（8頁でアドレスを掲載）または、同封のチラシをご覧ください。



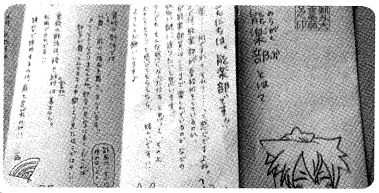
コラム

頑張れ！現役部員！

「新入生勧誘活動！」

取材：塚田智恵さん（広報部）

四回生が抜けた後、四人になってしまった能楽部。四月の新勧活動では、この四人の頑張りで、七人の新入部員が入部しました。今、能楽部は活気にあふれています。新勧の中心になった上回生にどのように能楽部をアピールしたのか聞きました。

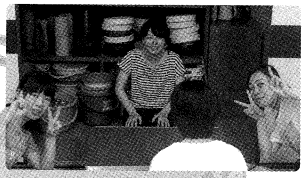


塚田：「新勧が始まる前の気持ちを教えてください。」

上回生Ａ：「正直なところ、すごいプレッシャーでした。でも新入生を入れないと部活の存続に関わるので、頑張らなくてはという気持ちでした。」

塚田：「今回の新勧で工夫したところは？」

上回生Ｂ「春合宿に来てくれた先輩と考えて、森田記念講堂での部活紹介の内容をＤＶＤでまとめて、十秒でインパクトを与えるものにしました。先輩方の船弁慶の映像を使わせてもらいました。それと能楽部がどんなクラブかわかるように、こんなパンフレット（上段写真参照）も作ってみました。なんとか能楽部に興味を持ってもらえるように頑張りました。」



上回生にインタビューをしていると、二回生が部室に入ってきたので、新勧の時のことを聞いてみると、「部の雰囲気がとても良かったです。少し話して、絶対この人良い人だと思って入部しました。」との事。上回生四人の魅力で集まってきた新入部員も皆とても素敵な人たちでした。後輩たちの外大能初舞台☆もうすぐです。



ＯＢ交歓会で現役生との交流

去る七月三日（日）、円山公園内「いふじ」、河原町「ミュンヘン」に於いてＯＢ交歓会が開催されました。今年は七名の新入部員を迎え、賑やかな会となりました。近年のクラブ離れが叫ばれる中、部長さんを中心とした現役たちの勧誘活動が素晴らしかったのだと思います。

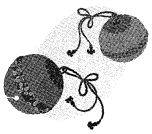
緊張して震えながら「初めてお酌をします。」とビールを注いでくれる姿がとても可愛らしくて印象的でした。ＯＢ同士顔を見合わせ、「きっと私たちにもこんな時代があったのよね。」と笑い合い、昔話に花が咲きました。

入部のきっかけはそれぞれだと思います。活動をしていく中で、楽しいことはもちろんたくさんあるでしょうが、時には学業との両立に悩んだり、苦しいこともあるかもしれません。でもどうか四年間頑張って欲しいと思います。

島谷会長が会の冒頭の挨拶で「能楽部は、入って絶対に後悔しないクラブ」とおっしゃられました。現役部員の頑張りはもちろん大切ですが、困っている時に支援できるのは、過去に同じ経験をした我々ＯＢであると思います。皆さん、希望に満ち溢れている現役部員へのサポートを、今後ともよろしくお願い致します。



集合写真「いふじ」にて



【現役執行部の紹介】

部長・外大能実行委員長　木俣　悠
副部長・外大能会計　谷口詩歩
部長補佐・外大能会計補佐　村上円香
外大能実行委員　今池　良
一般会計

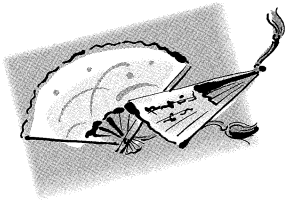
ＯＢ総会・懇親会

去る九月四日（日）、円山公園内「いふじ」にて、ＯＢ総会が開催されました。お忙しい中、また遠方よりご参加頂きましたＯＢ・ＯＧの皆様、ありがとうございました。

今年は改選の年にあたり、別記の通り役員が選出されました。

「若い世代へのバトンを」ということで、世代交代を視野に入れ役員の入れ替えを行いました。これまでのやり方で良い部分は残し、合理的でない部分は新たに変えていくことで、よりよいＯＢ会をつくっていけたらと思います。

会員の皆様の益々のご協力をよろしくお願い致します。





懇親会のひとコマ

総会の後は、いふじさんの美味しい懐石料理に舌鼓。近況を報告し合い、和やかな雰囲気の中、美味しいお酒がすすみました。









第八回　花鏡の会「ゆかた会」開催！

恒例となりましたゆかた会も、今年で八回目。花鏡の会のメンバーも年々少なくなり、一時期に比べると賑やかさには欠けますが、こうして会を重ねていけるのは、日頃ご指導頂いております橋本忠樹先生のお蔭であると感謝しております。

今年も仕舞だけではなく、素謡も番組に加わりました。これにより、お稽古になかなか参加できなかった会員や、仕舞が苦手な会員もゆかた会への出演が可能になりました。

花鏡の会は、能を楽しむ会です。仕舞だけでなく、お謡のお稽古もできます。

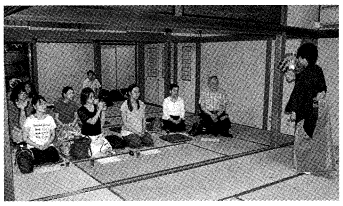
会を継続していくために会員それぞれが柔軟に考え、その時にできることを皆で楽しむ会です。どなた様も、どうぞお気軽にご参加ください。

















平成二十八年十二月十日(土) 正午始メ　於 河村能舞台
第五十三回 外大能 番組紹介(簡略)

和布刈　連吟　部員一同

清経　キリ　仕舞　阿部　拓海

吉野天人　キリ　仕舞　中山　綺夏

杜若　キリ　仕舞　藤原　万由美

胡蝶　仕舞　安部　薫

龍田　キリ　仕舞　大垣　愛満

猩々　仕舞　金光　優衣

鶴亀　仕舞　山本　梨恵

俊成忠度　キリ　今池　良

大江山　能楽　仕舞　板谷　海緒

羽衣　能楽　谷口　詩歩
和合之舞　後見　橋本光史　橋本忠樹
地謡　板谷海緒　土井智代　大垣愛満　島谷直見　金光優衣　鴨川愛子

敦盛　キリ　仕舞　西村　文香(ＯＧ)

放下僧　小歌　塚田　智恵(ＯＧ)

邯鄲　楽アト　栗山　藍(ＯＧ)

野守　舞囃子　村上　円香

天鼓　仕舞　井上　真一(ＯＢ)

花筐　狂　仕舞　土井　智代(ＯＧ)

殺生石　仕舞　木村　与宣(ＯＢ)

弱法師　連吟　島谷　直見(ＯＧ)

紅葉狩　連吟　ＯＢ・ＯＧ★

白楽天　番外仕舞　橋本　雅夫

柏崎　道行　橋本　儀道

山姥　キリ　橋本　忠樹

菊慈童　能楽　木俣　悠
後見　橋本擴三郎　橋本儀道
地謡　藤原万由美　井上真一　山本梨恵　橋本光史　村上円香　橋本忠樹　谷口詩歩　藤原敏起
附祝言

★ 多数のご参加をお待ちしています。足袋をご持参ください。

能楽部関連ホームページのご案内

『京都外国語大学能楽部』➡https://twitter.com/kufsnoh

能楽部の現役部員が管理しているツイッターです。現役部員の近況がアップされていて楽しいツイッターです。是非一度ご覧ください。

『観世流能楽師 橋本忠樹先生のHP』➡http://www.hashimoto-tadaki.jp/

能楽部講師　橋本忠樹先生のホームページです。能楽の解説をはじめ能楽界に関する様々なお話が分かり易く解説されています。徒然日記、先生の海外出張のご紹介など、忠樹先生の素顔や普段の多方面に亘ってご活躍されている一面を知ることが出来る興味深いホームページです。

会計局から会費納入のお願い

◎一般会員　8千円
◎夫婦会員　1万2千円
前年度分まで未納の方は本年度分と併せてお振り込みくださいます様お願い申し上げます。
[振込先]
☆郵便口座
００２８０－１－５２０７６
☆加入者名
京都外国語大学能楽部ＯＢ会

編集後記

この度、広報部は役員改選で新しいメンバーになりました。皆それぞれ違う生活があり直接全員で会う事は出来ませんが、出来る事を精一杯協力し合って作成できました。
お忙しい中、原稿執筆下さいました皆様に心より御礼申し上げます。
これからも様々な切り口の記事を掲載し、ＯＢの皆様が繋がっていけるようなＯＢ会だよりを目指して行きたいと考えています。
今後もご意見や希望の企画などございましたらお寄せ下さい。よろしくお願いします。

《ＯＢ会だより第53号》
◎編集責任者　唐木啓子
☆編集委員／藤原敏起・土井智代・鴨川愛子・栗山藍・塚田智恵・橋口莉奈
◎発行責任者　島谷直見